

製品の特長

キャリバー6M26は、時刻のほかにアラーム・タイマー・カレンダー（月・日）・ストップウォッチの機能を備えたアナログクォーツ時計です。

ストップウォッチ機能

1/10秒単位で計測ができ、スプリット計測も可能な60分計です。

アラーム機能

12時間制で1分単位に合わせることができ、アラームのON（鳴り）・OFF（鳴り止め）を選択できます。

タイマー機能

1分単位に合わせることができる60分計です。

針は左まわり（反時計方向）する減算タイマーです。

カレンダー機能

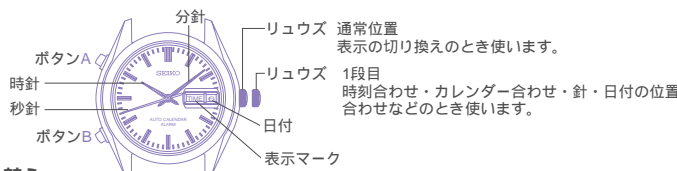
うるう年の2月を除き修正がいらぬオートカレンダーです。

製品仕様

1. 水晶振動数	32,768Hz (Hz=1秒間の振動数)
2. 携帯精度	常温 (5°C ~ 35°C) において月差 ±15 以内
3. 作動温度範囲	- 10°C ~ 60°C
4. 駆動方式	ステップモーター 4個
5. 表示内容	TIME : 時・分・秒・日 ALARM ON : 時・分・秒・日 ALARM SET : 時・分・日 (12時間制) TIMER : 分・秒・日 (60分計) DATE : 月・日 (うるう年の2月を除くオートカレンダー) CHRONO : 分・秒・1/10秒・日 (60分計)
6. 使用電池	小型酸化銀電池 SB-BP 1個
7. 電池寿命切れ予告機能付	
8. 電子回路	C-MOS-LSI 1個

上記の製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

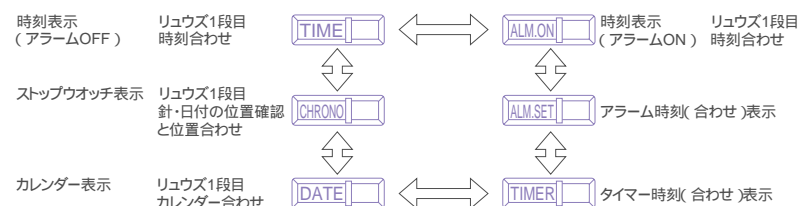
各部の名称とはたらき



表示の切り替え

リュウズを通常位置でまわして、表示マークを動かすことにより次の表示に切り換わります。

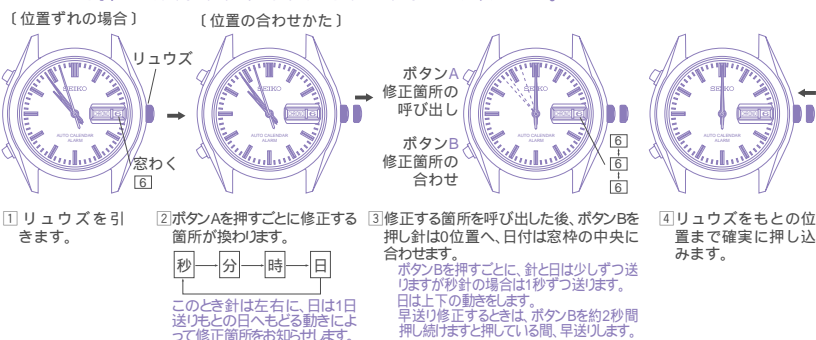
リュウズは両方向にまわすことができます。



針・日付の位置確認と位置の合わせかた

リュウズをまわして [CHRONO] 表示にしてください。このとき、秒・分・時針が0位置（12時位置）へもどらなかつたり、日付が窓わくよりずれているときは、次の手順にそって位置合わせをしてください。

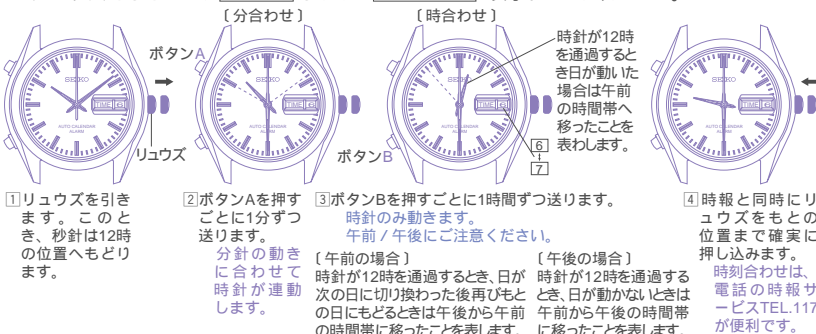
ストップウォッチが作動しているときは、ボタンAを押してストップさせて、次にボタンBを押してストップウォッチをリセットしてください。



時刻の合わせかた

時刻を合わせる前に、針が0位置（12時位置）へまた、日付が窓わくの中央に合っているかご確認ください。詳しくは、「針・日付の位置確認と位置の合わせかた」の項をご参照ください。

リュウズをまわして [TIME] または [ALM. ON] 表示にしてください。

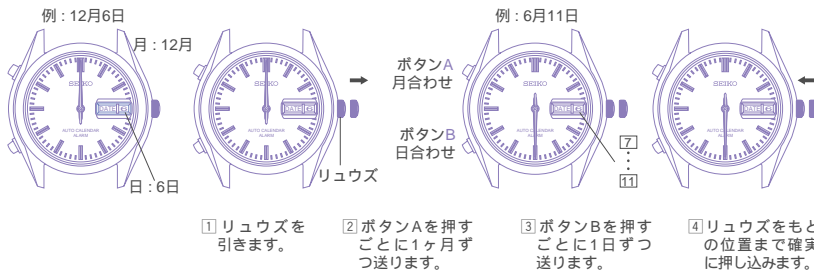


早送り修正するときは、ボタンAまたはBを約2秒間以上押し続けると押ししている間、早送りします。12時を通過するとき午前の場合（日が動いている間）、針は一時静止します。この表示では、日付を合わせることはできません。 [DATE] 表示で月・日を含ませます。

カレンダーの合わせかた

リュウズをまわして [DATE] 表示にしてください。月は文字板の時目盛を用いて針によって表します。

〔カレンダー(月・日)の読みかた〕 〔カレンダーの合わせかた〕

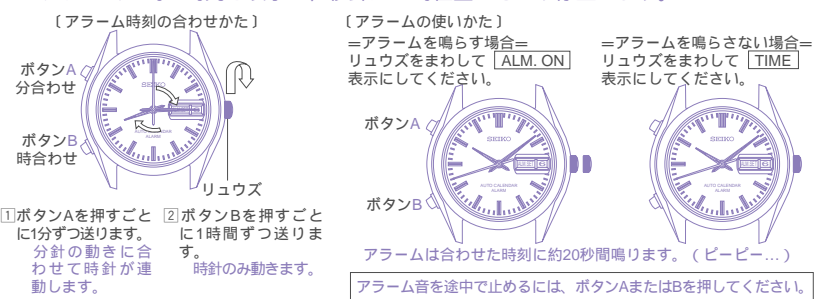


月・日を早送り修正するときは、ボタンAまたはBを約2秒間以上押し続けると押ししている間、早送りします。うるう年の2月を除き修正がいらぬ、オートカレンダーです。存在しない日（例：2月30日）を設定し、リュウズを押し込んだときは翌日の1日（例：3月1日）となります。

アラームの使いかた（12時間制）

アラームは1日2回鳴る12時間制で、1分単位に合わせることができます。リュウズをまわして [ALM. SET] 表示にしてください。

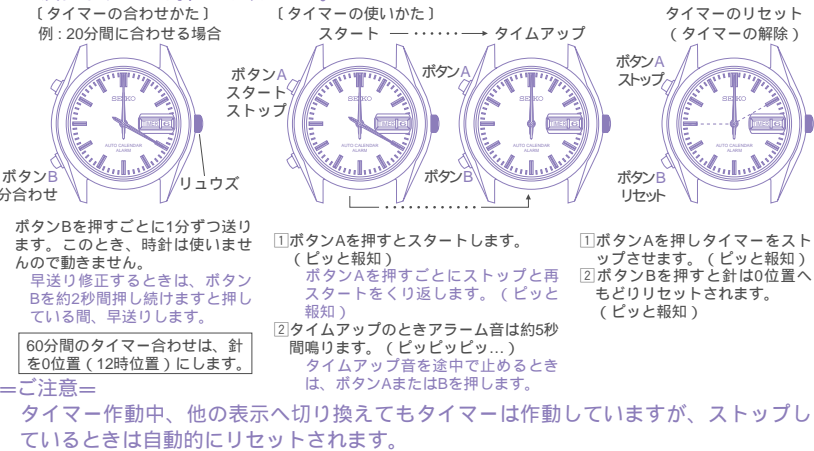
アラームの鳴る時刻を表示し、秒針は12時位置へもどり停止します。



早送り修正をするときは、ボタンAまたはBを約2秒間押し続けると押ししている間、早送りします。リュウズを引いた状態でも合わせることができます。

タイマーの使いかた（60分計）

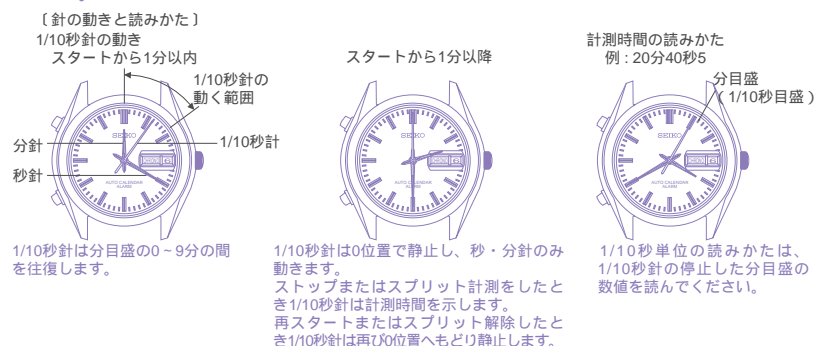
1分単位に最大60分まで合わせることができ、針は左まわり（反時計方向）する減算タイマーです。リュウズをまわして [TIMER] 表示にしてください。針は0位置（12時位置）へもどります。タイマーが作動しているときは、ボタンAを押して次にボタンBを押してください。



ストップウォッチの使いかた（60分計）

1/10秒単位で計測ができ、スプリット計測も可能な60分計です。リュウズをまわして [CHRONO] 表示にしてください。

針は0位置（12時位置）へもどります。ストップウォッチが作動しているときは、ボタンAを押してストップさせて、次にボタンBを押してください。ストップウォッチでは、針の名称（はたらき）が他の表示と異なりますのでご注意ください。

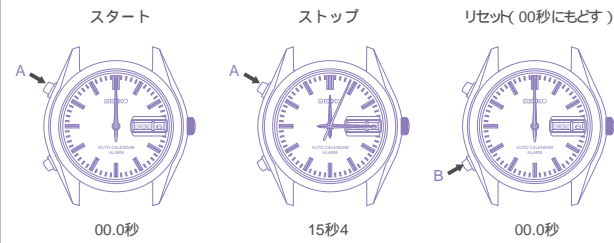


計測中、他の表示へ切り換えてもストップウォッチは作動していますが、スプリット状態ではスプリット解除となります。ストップウォッチとしてのボタン機能が一時停止するときがあります。タイマーのタイムアップ音が鳴っている間、スプリット解除後、通常の運針状態へもどる間。

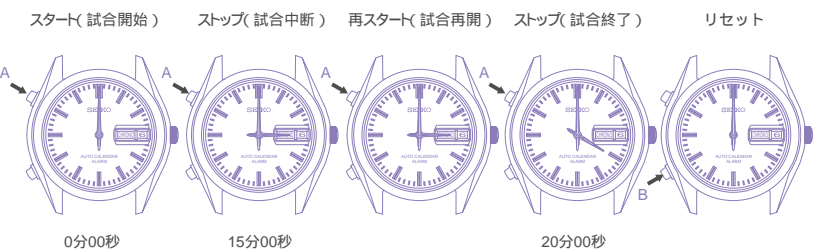
ストップウォッチの使いかた（つづき）

ボタンを押すごとに確認音が「ピッ」と報知します。

普通の使いかた（ボタンの押し順序：A A B）



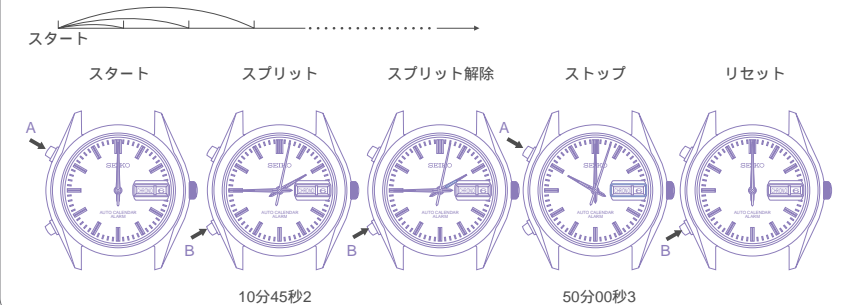
時間計測を積算で行う場合（例：バスケットボール）ボタンの押し順序：A A A... A B）ボタンAを押すごとに、ストップと再スタートをくり返すことができます。



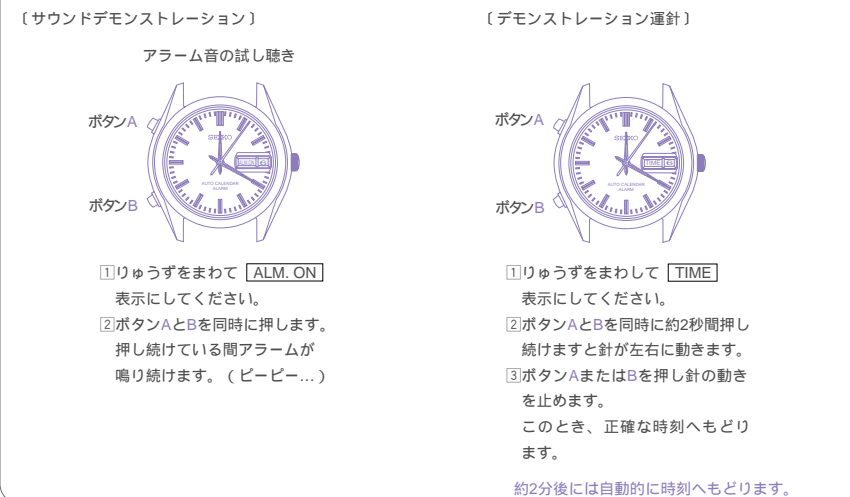
途中経過時間（スプリット）を測る場合（ボタンの押し順序：A B B... A B）

ボタンBを押すごとに、スプリットとスプリット解除をくり返すことができます。

スプリット：スタートからある区間までの途中経過時間のことです。



デモンストレーション



電池交換後のお願い

電池を交換した後は、時計内のICメモリー情報と針・日付の表示位置が一致しくなくなりますので、次の手順にそって合わせてください。

リュウズをまわして [CHRONO] 表示にしてください。

ストップウォッチが作動しているときは、ボタンAを押してストップさせて、次にボタンBを押してストップウォッチをリセットしてください。

